

## 令和4年度第2回 きよみ野地区地域支え合い会議 議事録

日 時：令和4年8月30日（火）  
午後1時30分から午後3時00分  
場 所：おあしすセミナー2

### <参加者>

地区住民：別紙参照、長寿支援課：石塚、金澤、生活支援コーディネーター：浦上  
第一地域包括支援センター：石岡、社会福祉協議会：日高、谷口

- 1 開会
- 2 自己紹介
- 3 意見交換

(包括支援センター石岡さんより)

日頃の見守り活動の中で、独居で認知症を発症し、生活が破綻してしまっているケースなどが増えてきている。地域とのつながりがなく、埋もれてしまい発見した時には関りが困難な状況となっており、元気なうちから繋がりをつくることは大事だと痛感している。

(きよみ野クラブ渡辺さん)

- ・当初は125人以上いた会員も10年間で80名前後と減少している。
- ・平均年齢は81.5歳と高齢化し、毎年10名近く退会者がいる。
- ・年齢を重ねることでイベントへの参加が難しくなっていることも原因となり減少。  
→認知症が疑われる会員もいる中で、できるだけ継続して参加が出来るよう会でも試行錯誤しているが家族などの協力も必要なるため苦戦している。
- ・会員同士の見守りで友愛活動（安否確認、声掛けなど）を推進しているが、一方的な見守りを目的とすることは拒否されることがあり、老人会の活動として難しい面がある。  
→ケースによっては民生委員や包括支援センターと一緒に訪問することもよいのではないかと。
- ・様々なイベントや取り組みを展開しているが、なかなか人が集まらない。  
→民生委員の訪問活動できよみ野クラブのチラシを持参することができる！（伊東民生委員より提案）

(自宅でオレンジカフェを実施している三浦さん)

- ・コロナ前までは、自宅を開放しオレンジカフェを開催していた。地域の独居高齢者や認知症初期の方へ役割をもってもらいカフェを運営。現在はコロナで休止中だが、関わってくださっていた人がどうしているか気になっている。
- ・高齢者施設で看護師として働いていたが退職し、現在は、7、8人が参加する共同農園の取り組みに参加している。  
→ノウハウをたくさん持った方が多くいる中で、農園食堂を提案すると活動者は協力

的ですぐに形になりそうな勢いがあった。何か活かしたい！活動したい！と想いを  
もった人たちがいると感じた。

(子育てネットワーク代表中島さん)

- ・自身の活動（子育て支援活動）を通して、何か役割を与えられたからやるだけでは長続きしないと感じている。楽しいから！得意分野を活かしたい！などが活動を継続させる原点になる。
- ・イベントを行った際に、双子の保護者から普段は一人で二人を見切れないが、大人の目がたくさんあることで安心して外に出られると声があった。
- ・外の活動は、誰もがいきいきとして開放される。子供を連れて保護者も参加することで幅広い世代での交流ができたらいいのではないか。
- ・行政の協力が得られずに、公園等が使用できない場合には民間企業への協力を依頼しイベントを実施するなど工夫している。
- ・現在はコロナ禍で、公園等でのイベントで飲食は禁止されているが、「食」は繋がりづくりに大きな役割を持つと感じている。

#### 4 まとめ

今回の意見をもとに、まずは何か取り組めることを整理する。

また、新たにきよみ野地区にあったらいいな、取り組みたいことを出し合っていく。

- ・農園食堂（ビニールプールなどを併設することで子供も集まるのではないか。）  
テントの活用などで実施可能かもしれない！
- ・グラウンドゴルフ体験会  
→きよみ野クラブで実施されているが、世代問わず体験会を通じて交流を図れる。
- ・きよみ野地区で行われている様々な活動を、普段なかなか知る機会がないため、それぞれの団体、活動の取り組み発表の場をつくるなどして、住民が知るきっかけをつくることも必要なのではないか。  
→各グループの活動が閉鎖的になっている。外部とのつながりづくり、周知活動。

#### 5 次回開催

令和4年10月27日（木）

※おあしすミーティング4

